
土地分類基本調査

大 聖 寺

5万分の1

国 土 調 査

福 井 県

昭和62年

序 文

この土地分類調査は、地形、表層地質、土壌および土地利用の現況を科学的かつ総合的に調査し、土地の基本的性格を明らかにすることを目的とし国土調査法に基づき実施するものです。

本県では、56年度から調査を実施しており、今回は、「大聖寺」図幅についてとりまとめました。

今後、この成果が各種土地利用計画の策定や土地開発保全事業の基礎資料として、あるいはその他広く関係者に利用され、県土の有効利用の一助となれば幸いに存じます。

最後に、調査の実施にあたり御協力いただいた関係各位に対して心から謝意を表する次第であります。

昭和62年3月

福井県県民生活部長 松 本 齊

まえがき

1. 本調査の事業主体は福井県であり、国土庁土地局国土調査課の指導を得て実施したものである。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。
3. 調査の実施、成果の作成機関および担当者は下記のとおりである。

総括	福井県県民生活部地域振興課		
調査	福井県土地分類基本調査研究会	会長	塚野善蔵 (福井大学名誉教授)
地形調査	仁愛女子高等学校	教諭	吉川博輔 (傾斜区分)
表層地質調査	福井大学教育学部	教授	三浦 静
	” 附属中学校	教諭	吉澤康暢
土壌調査	福井県農業試験場	課長	小林 勤
	”	研究員	野村豪一
	福井県総合グリーンセンター	技師	川端秀治
土地利用現況調査	福井県地域振興課		

目 次

総 論

I 位置・行政区画・人口	1
II 地域の概況	3
III 主要産業の概要	4
IV 交 通	5

各 論

I 地形分類図	12
II 表層地質図	15
III 土 壌 図	20
IV 土地利用現況図	34

總論

I 位置・行政区画・人口

1. 位置

「大聖寺」図幅は、福井県の北端に位置し、東経 $136^{\circ}15' \sim 136^{\circ}30'$ 、北緯 $36^{\circ}10' \sim 36^{\circ}20'$ の範囲にある。

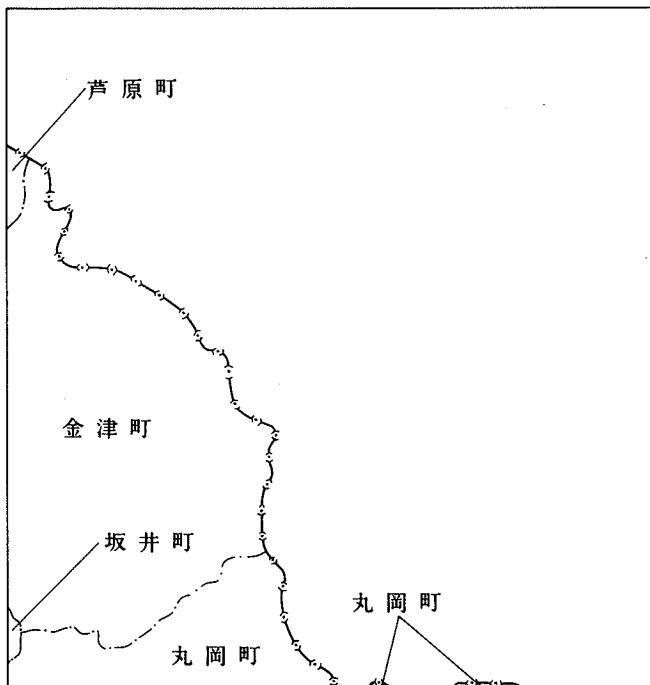
図幅面積は、約 415 km^2 であり、そのうち福井県の陸地面積は約 77 km^2 である。

2. 行政区画

本図幅内の行政区画は、図1のとおりであり、金津町の約8割と芦原町、丸岡町、坂井町の一部を含む。

なお、町別の総面積と図幅内面積との関係は、表1のとおりである。

図1 行政区画



3. 人 口

本図幅にかかる行政区域全体の人口および世帯数の推移は、表2に示すとおりである。

本地域の人口は、昭和50年～55年、55年～60年にかけて県平均を大きく上回る増加率を示している。特に、丸岡町は福井市のベッドタウンとして、近年、人口の増加が著しい。しかし、本図幅面積の約8割を占める金津町では、人口増加率が減少しており、55年～60年は県平均をかなり下回っている。

Ⅱ 地域の概況

1. 概況

本地域は、地形的にみると、加越山地・加越丘陵・加越台地・福井平野に区分できる。

加越山地は、九頭竜川以北の石川県南部に続く山地で、本図幅に位置している。高度は500～600 m以下で一般的に低く、第三紀層の山地となっている。谷筋の斜面には、スギの造林が発達しており、金津町の刈安山では現在、町の森林自然公園の整備が進んでいる。加越丘陵は、本地域中央に南北の列をなして分布している。この丘陵地の両側を、北陸の動脈である国鉄北陸本線、北陸自動車道、国道8号が南北に縦貫しており、中の谷峠を経て石川県側に通じている。加越台地は、土地の隆起により形成された洪積世の台地であり、本図幅にみられる台地は、厚い砂層からなる。この加越台地では、昭和46年度から国営総合農地開発事業（坂井北部地区）として、総面積約3,100 haにおよぶ大規模な農地造成、区画整理およびかんがい水路の建設が進められ、野菜果樹栽培の畑作を中心とした総合農地として整備が進められている。また、この台地上には、緩やかな傾斜地を利用してゴルフ場が数多く作られている。一方、地域の南西部に広がる平地は、福井平野の北部に位置する坂井平野の一部である。この平野は、主に竹田川の氾濫により形成された沖積平野であり、竹田川に沿って自然堤防が見られる。現在の集落は、この自然堤防上に発達したものである。

図幅の北端には、浄土真宗中興の祖といわれる蓮如上人によって開かれた寺内町の吉崎があり、現在はその跡に建立された東・西本願寺別院の門前町となっている。また、吉崎から北潟湖にかけての一带は、越前加賀海岸国定公園の一部であり、附近に散在するゴルフ場、海水浴場とともに、夏場には多くのレジャー客を集めている。

2. 気象

本地域は、北陸型の気候特性を示す。地域中央部から南部にかけては、気温はそれほど低くないが積雪の多い北陸の典型的な気候であるが、地域北部は、冬も暖かく降水量も少ない北陸海岸部の気候を示す。

Ⅲ 主要産業の概要

1. 就業構造

本図幅にかかる行政区域全体の就業構造は、表4のとおりである。

県平均と比較すると、第一次産業の比率が高く、第二次、第三次産業の比率は低くなっている。昭和40年から50年への推移をみると、第一次産業が大幅に減少し、第二次、第三次産業が増加しているが、まだ第一次産業の比率は県平均を上回っている。

2. 農林水産業の概要

農業の概要は表5のとおりであり、本地域は県全体と同様、稲作中心の農業型態を示している。特に坂井町では、耕地面積全体に対する田の面積比率が98%（県平均91%）であり、生産額でも米が92%（同84%）を占める。一方、芦原町金津町では普通畑が多く、耕地面積に占める割合は、各々、24%、20%と県平均の7%を大きく上回っている。畜産生産額は、芦原町、金津町では豚・鶏の割合が高く、丸岡町、坂井町は肉用牛の割合が高い。また、生産性を耕地10aあたりの生産農業所得でみると、芦原町と坂井町が県平均をかなり上回っている。

森林の概況は表6のとおりであり、本地域は人工林率が高く、県平均をかなり上回っている。樹種別にみると、針葉樹の割合が高く、林地面積に占める割合は61%と県平均の40%を上回っている。

3. 商工業の概要

商業の概要は、表7のとおり小売業がそのほとんどを占め、売場1㎡あたりの年間販売額をみると、各町とも県平均を大きく下回り、地域平均は県平均の約30%の水準となっている。

工業の概要は表8のとおりで、本地域のうち金津町では紙・パルプ、繊維、丸岡町では繊維の構成比が高く、それに伴い用水量も非常に多い。金津町の用水量は5万 m^3 を越え、地域の7割以上を占めている。

Ⅳ 交 通

本地域内には、北陸の動脈である北陸自動車道、国道8号、国鉄北陸本線が走っており、加越山地を牛の谷峠で越えて石川県に通じている。特に、北陸自動車道では、昭和59年に金津インターチェンジが開設され、中京、京阪神と本地域との時間距離が短縮された。

また、海岸線を走る国道305号、山間部を走る国道364号が、本地域を一部通過して、石川県に通じている。

図2 主要交通網

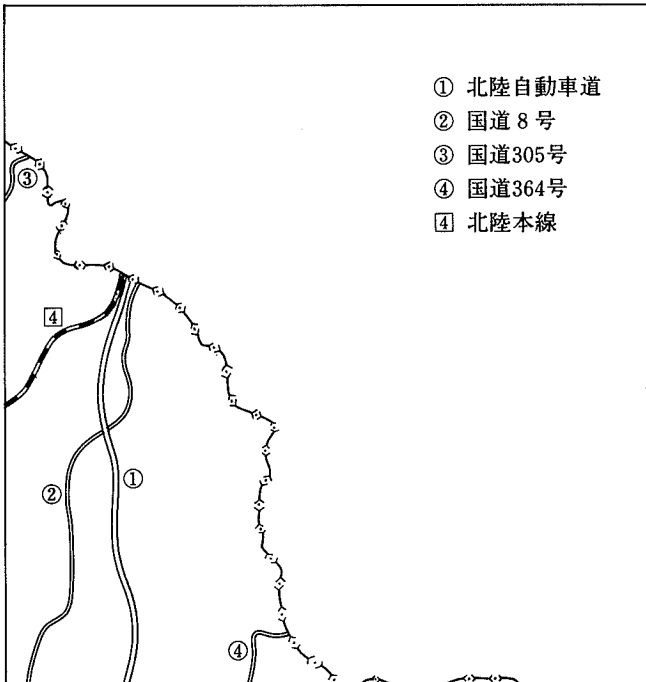


表1 図幅内市村町別面積

(単位：km²，%)

区分 町	図幅内面積		総面積 (B)	占有率 (A/B)
	実数 (A)	構成比		
芦原町	0.47	0.6	37.57	1.3
金津町	61.99	80.3	78.78	78.7
丸岡町	13.17	17.1	108.17	12.2
坂井町	1.55	2.0	31.88	4.9
地域計	77.18	100	256.4	30.1

資料：「全国都道府県市区町村別面積調(昭和59年)」(建設省国土地理院)

注：図幅内面積は、国土地理院発行5万分の1地形図から計測

表2 人口および世帯数

(単位：人，戸，%)

区分 町	昭和50年		昭和55年		昭和60年		人口増加率	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	55年 50年	60年 55年
芦原町	13,289	3,423	13,607	3,623	14,264	4,142	2.4	4.8
金津町	16,949	4,223	17,368	4,357	17,566	4,440	2.5	1.1
丸岡町	23,416	5,600	24,807	6,044	27,077	6,888	5.9	9.2
坂井町	10,537	2,405	10,966	2,524	11,230	2,570	4.1	2.4
地域計	64,191	55,651	66,748	16,548	70,137	18,040	4.0	5.1
県計	773,599	195,223	794,354	205,672	817,633	222,975	2.7	2.9

資料：国勢調査報告

注：世帯数は普通世帯数である。

表3 気 象 表

(単位：℃, mm, cm, m/s)

区分	月												統計期間	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		全年
平均気温	3.9	4.1	7.1	12.6	17.4	21.2	25.6	27.0	23.0	16.9	12.0	6.9	14.8	1941~1970
平均最高 気温	6.9	7.3	10.9	17.0	21.6	24.8	29.1	31.0	26.8	21.1	16.0	10.1	18.6	
平均最低 気温	0.9	0.8	3.2	8.2	13.2	17.6	22.1	23.0	19.2	12.7	7.9	3.7	11.0	
降水量	346	216	167	136	150	211	227	148	239	193	189	337	2,559	
最深積雪	147	154	94	9	0						3	88	154	1898~1970

資料：「福井県の気候（昭和51年）」（福井地方気象台）

観測所名：三国（坂井郡三国町三国3-14）

注：平均気温は、平均最高気温と平均最低気温の平均である。

表4 産業別就業人口

(単位：人，%)

区分 町	総数		第一次産業		第二次産業		第三次産業	
	昭和40年	55年	40年	55年	40年	55年	40年	55年
芦原町	7,300 (100)	8,053 (100)	3,339 (45.7)	1,628 (20.2)	908 (12.4)	1,794 (22.3)	3,053 (41.9)	4,631 (57.5)
金津町	9,480 (100)	9,645 (100)	3,498 (36.9)	1,679 (17.4)	3,160 (33.3)	3,774 (39.1)	2,822 (29.8)	4,192 (43.5)
丸岡町	13,265 (100)	13,997 (100)	4,331 (32.6)	2,111 (15.1)	5,607 (42.3)	6,104 (43.6)	3,327 (25.1)	5,782 (41.3)
坂井町	5,994 (100)	6,550 (100)	3,827 (63.8)	1,842 (28.1)	804 (13.4)	2,111 (32.2)	1,363 (22.8)	2,607 (39.7)
地域計	36,039 (100)	38,255 (100)	14,995 (41.6)	7,260 (19.0)	10,479 (29.1)	13,783 (36.0)	10,565 (29.3)	17,212 (45.0)
県計	401,262 (100)	425,313 (100)	125,124 (31.2)	53,303 (12.5)	133,979 (33.4)	165,600 (39.0)	142,159 (35.4)	206,410 (48.5)

資料：国勢調査報告

注：分類不能の産業は第三次産業に含めた。()内は構成比

表5 農業の概要

(単位：ha, 百万円, 千円/10a)

区分	耕地面積			農業粗生産額										生産性 耕地/10a 当期生産農業所得					
	計	畑		耕						畜					産				
		田	普通畑	樹園地	牧草地	計	米	麦	雑穀 豆 いも	野菜	果 実	その他	計		肉用牛	乳用牛	豚	鶏	その他
芦原町	1,870	1,380	443	45	2	3,629	2,369	42	100	732	110	276	956	—	155	201	600	—	96
金津町	1,890	1,470	384	34	3	2,996	2,420	94	130	269	8	75	1,133	—	62	155	916	—	74
丸岡町	2,180	2,070	103	1	—	3,722	3,471	34	83	125	5	4	217	131	23	49	14	—	77
坂井町	2,270	2,220	53	—	—	4,293	3,947	136	125	75	1	9	329	180	13	88	48	—	88
地域計	8,210	7,140	983	80	5	14,640	12,207	306	438	1,201	124	364	2,635	311	253	493	1,578	—	84
県計	48,700	44,300	3,400	726	305	77,347	65,352	1,044	1,688	6,984	788	1,491	8,627	877	2,307	1,214	4,198	31	75

資料：「福井農林水産統計年報（昭和59年）」（北陸農政局福井統計情報事務所）

注：生産性の地域計は，各市町村の生産性の平均である。

表6 森林の概況

(単位:ha, %, 千m³)

区分 町	総面積	国有林・民有林別		樹種別内訳				人口 林率	蓄積量 (材積)
		国有林	民有林	針葉樹	広葉樹	竹林	無立地等		
芦原町	431	43	388	402	14	5	10	88.7	51
金津町	4,216	5	4,211	3,145	1,011	16	44	63.6	609
丸岡町	6,990	—	6,990	3,550	3,368	1	71	48.0	770
坂井町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地域計	11,637	48	11,589	7,097	4,393	22	125	66.8	1,430
県計	35,503.3	4,060.8	27,442.5	14,069.4	16,139.2	1,565	11,382	43.1	2,901.0

資料：福井県林業統計書（昭和59年度）

表7 商業の概要

(単位：店，人， m^2 ，億円，万円/ m^2)

区分 町	商店数				従業者 数	売場 面積	年間 販売額	1 m^2 あたり 年間 販売額
	総数	卸売業	小売業	飲食店				
芦原町	227	14	213	82	808	19,856	117	59
金津町	281	16	265	112	850	15,456	135	87
丸岡町	459	49	410	151	1,588	26,738	266	99
坂井町	136	8	128	53	372	6,325	69	109
地域計	1,103	87	1,016	398	3,618	68,375	587	86
県計	16,564	3,141	13,423	4,843	72,118	816,875	22,927	281

資料：福井県の商業（昭和60年）

表8 工業の概要

(単位：所，人， ka ，億円， m^3)

区分 町	事業所数	従業者数	敷地面積	製造品 出荷額等	1日あたり 用水量
芦原町	95	677	6.2	65	43
金津町	212	3,414	71.0	680	50,480
丸岡町	735	3,896	21.0	403	16,474
坂井町	126	1,454	25.8	408	3,758
地域計	1,168	9,441	124.0	1,556	70,755
県計	10,185	111,119	1,030.0	15,312	1,017,361

資料：福井県の工業（昭和59年）および地域振興課

注：敷地面積1日あたりの用水量は30人以上の事業所のデータである。

各 論

I 地形分類図

1. 地形概説

本図幅は、加越山地・加越丘陵・加越台地・福井平野に地形区分できる。

加越山地は、九頭竜川以北の石川県南部に続く山地で、山地の東部では山頂部に白山火山系の火山を多く設けている。起伏量は一般に大きい山地である。山地の東部と西部では、生成時期や高度も違っているが、本図幅に表われている加越山地は、第三紀層で被覆され高度も全般に低い。この加越山地は、やがて丘陵に変化して加越丘陵となり、南北に丘陵列をつくる。

加越台地は、三国・芦原・金津町の北部一帯に広がっているが、本図幅では台地の東側部分が表われている。この台地は、洪積台地で、東側と西側に高く（標高50～80 m）、中央部に低い（標高30～40 m）。本図幅にみられる台地は厚い砂層からなる。

平地は、福井平野の一部がみられ、竹田川沿いに自然堤防が発達している。また丘陵および台地に樹枝状に谷底低地が発達している。

2. 地形各論

(1) 山地・丘陵

高度は500～600 m以下で、全般的に低く、第三紀層の山地となっている。この山地の北西端部は100～150 mの丘陵に転じ、加越台地に接している。この加越山地は低山性の山地であるが、山地の斜面は急で、30度以上の斜面が $\frac{1}{3}$ を占めている。また起伏量は全般的に大きい。標高からみて、刈安山（547 m）・劔ヶ岳（567 m）・風谷峠（500 m）など500～600 mを示す部分と、この西側にみられる300～400 mの部分、それに100～150 mの丘陵部分に分けることができる。前述した急斜面は、500～600 mのブロックから300～400 mのブロックに移行するところに広く分布している。一方100～150 mの丘陵部分は、加越台地と加越山地との間に楔状に分布しているが、加越山地の前山的性格をもった地形である。これらのことから、加越山地は、西側に沈降するような運動があったことを暗示している。

(2) 台地・段丘

ア. 河岸段丘高位面

この地形は、起伏のある面をもたない段丘地形である。高度は50～80 m前後で、牛ノ谷・畝田野々・下金屋・清滝付近に分布している。段丘を構成している物質は、2～3 cm程度の円礫混りの砂・粘土層の互層となっており、中期更新統に属する面と考えられる。三国図幅地形分類図では、台地高位面に相当する面である。

イ. 台地低位面

この地形面は、三国図幅地形分類図では台地低位面ⅠⅡに相当する。標高20～30 mのこの地形面は、かなり侵食され、もとの地形がわかりにくい。構成する堆積物は、粗粒砂層を主体にその下部は細粒砂層からなっている。粗粒砂層は斜交ラミナが発達していることから、三角州的な堆積が行われたと考えられる。福井国際ゴルフ場の部分は一段高い地形面であるが、起伏に富んだ古砂丘が発達した地形である。宮谷・青ノ木・指中の各集落の背後にある地形面もいずれも古砂丘の部分である。

ウ. 河岸段丘低位面・旧扇状地

熊坂・清滝・東山にみられる地形面を低位段丘とした。この地形面は、いわゆる旧扇状地で、2～3 cmの垂円礫を主体に構成されており、解析がややすんでいる。

(3) 低地

低地は、沖積世に形成された谷底低地・扇状地・氾濫原などに分類される。

ア. 谷底低地

加越台地や丘陵を侵食して形成された侵食谷を谷底低地とした。この谷底低地の一角に北瀧湖が形成されている。観音川流域や後山にみられる谷底低地は谷幅はやや広い。特に後山にみられる谷底低地の場合、加越山地が平野部で沈降した際、袋状の小盆地が形成され、洪積世時代に入って土砂が堆積しその後侵食によって洪積層が洗い流され、現地形が形成されたものと考えられる。

イ. 扇状地

竹田川が福井平野に出るところに、小規模で低平な扇状地が形成されている。

川上付近を扇頂とし、乗兼付近を扇端とするこの扇状地は、傾斜はゆるく1/150程度で、礫径3～4 cmの小礫混りの砂層で構成されている。竹田川の河床が固定されるまでは乱流していたことが、旧河床の分布から推察できる。

ウ. 氾濫原

熊坂川や清滝川が、竹田川と合流する付近一帯の低地を氾濫原とした。氾濫原は、砂・砂質性シルト、小礫などで構成されている場合が多く、扇状地と三角州との中間部に形成された地形である。竹田川と田島川との合流する付近でかつては逆流による氾濫が多かったが、現在では排水ポンプの設置で内水災害は少なくなった。

エ. 自然堤防

竹田川に沿って自然堤防がみられる。集落はその自然堤防上に発達した。氾濫原との比高は1～1.8 m程度で、粗粒な砂・小礫で構成されている。かつては、竹田川沿いに帯状に自然堤防が発達していたが、耕地整理に伴い平坦化され、集落の部分とその周辺に残存する程度である。

なお、長屋の集落の東側に続く自然堤防帯に弥生遺跡が発見され調査された。地表面より約1.5～2 m下より弥生式住居の一部と思われる遺構が発掘された。

Ⅱ 表層地質図

1. 表層地質概説

1-1 地形と地質分布の概要

5万分の1「大聖寺」図幅(福井県分)に含まれる範囲は、石川県南部と福井県との県境部に隣接しており、行政区分としては、大部分が坂井郡金津町に属する。

地形的には、東側に海拔200m～600mの加賀越前山地があり、中部はおおむね200m以下の定高性を示す加越丘陵が、また、西側には海拔数10m以下の丘陵性の加越台地の一部がみられる。

加賀越前山地は、県境の山稜部に、刈安山(547m)、劔ヶ岳(567m)などを含むやや急峻な山地地形を示しており、主に西側に流下する権世川、清滝川、観音川の河谷によって刻まれている。山地の大部分は中新世前期の流紋岩～石英安山岩質の火砕岩からなり、一部に同質の熔岩を挟んでいる。

中部の加越丘陵は平均100～150mの高度をもつ低平な丘陵地で、北部では石川県側にも広がっている。丘陵と台地の境界付近には、南北方向に畝市野々、熊坂、後山などの袋状谷底低地が分布している。丘陵地の大部分は、南部を除いて、主に碎屑岩からなり、中・北部では海拔80m以下に、荒い砂礫からなる洪積層(高位段丘堆積物)が分布している。

西側の区域は平均30mの洪積砂層からなる加越台地の一部であり、数10m位の高まりは、概ね古砂丘砂が厚く分布している。

1-2 地質構造

この地域に分布する地層は、一般に北東方向の走向をもち、西方へ緩く傾斜する単斜構造をなしている。ただ丘陵地と山地の境に、また北潟湖の東岸を南北に通る顕著な断層がみとめられる。特に東岸で急傾斜を示すことから、この近くを^{しおや}塩屋断層が南北方向に通るものと推定できる。

2. 表層地質各説

2-1 表層地質の区分

5万分の1「大聖寺」図幅(福井県分)内に分布する岩石・地層の(層位学的)区分については、15万分の1福井県地質図および同説明書(福井県1969)に詳述されている。表層地質図では、上記区分をほぼ準用して、やや単略化し、次の様に大別して図示した。

(表層地質の区分)		(地質図の区分)
未固結堆積物	泥 質	沖積層
	砂 質	砂丘および自然堤防堆積物
	砂 礫 質	扇状地堆積物
完 新 世	砂 質	中位段丘層
	泥 砂 礫 質	低位段丘および高位段丘層
更 新 世	凝灰質泥岩・砂岩	大聖寺累層
	泥 岩	細坪累層および加佐の岬累層
固 結 堆 積 物	凝 灰 質 砂 岩	河南累層
新 第 三 紀	凝 灰 岩 質 岩 石	山中累層
中 新 世	安 山 岩 質 岩 石	浄法寺累層

2-2 各区分単元の説明

上記の単元毎に、その分布と性状について、以下若干の説明を加える。

2-2-1 未固結堆積物

(a) 泥 質〔m〕

この泥質堆積物は、福井平野および谷底平野の堆積物で、沖積層の厚さなどについては、はっきりしないが、一般に泥質で、厚さは最大20m以下と推定される。細呂木湖畔、指中の西方の低地では、軟弱な泥層とか黒泥質の分布が予想される。

(b) 砂 質〔S₁, S₂〕

この堆積物としたものは、福井平野(低地)を東西に流下する竹田川の両岸に沿って散在する自然堤防構造物であり、弥生時代以降に形成されたものである。また、金津町吉崎の対岸、浜坂付近に見当山を中心に分布する新砂丘砂層の一部がみられ、砂層台地を被っており、主にルーズな中粒砂で、福井地震の折に、浜

坂神社境内の一部が崩壊した。

(c) 砂礫質〔Sg₂, Sg₃〕

この砂礫堆積物として分布の大きいものは、竹田川扇状地および旧竹田川扇状地を作るものである。点在する袋状の谷底平野の上流山麓部には、小規模な扇状地礫層とか崖錐堆積物が分布するが、これらはすべて省略した。

平坦な段丘面を残す低位段丘礫層は、礫を主とし、かつ新鮮で、厚さ5 m以下であることが普通である。

(d) 砂質〔d₂, d₃〕

この砂質の半固結堆積物は、更新世後期の芦原砂層の粗粒砂層を主としており、図幅西、北部でかなり広い分布を占めている。宮谷付近では、厚さ3 m以内の中粒砂で、かつて存在した瓦原土の採取で、地表面の改変が進み、現在わずかに残存しているにすぎない。この上位は古砂丘砂に移化しており、きわめて均質な砂からなり、最大20 mの厚さをもつと推定される。

(e) 泥砂礫質〔d₁, Sg₁〕

海拔80 m以下の丘陵地および海拔30 m内外の台地を構成するものと、比高15 m以下の谷筋に沿って点在する低位段丘層がこれに相当する。前者は新第三系（基盤）の起伏位を埋積した堆積物であり、時に青色泥層をレンズ状に挟在し上部層中には生痕がしばしばみとめられる。金津町滝の泥質層からは、*Paliurus*・*Sapium*などの植物化石が産出する。各種の化石から判断すると、汽水性環境と考えられ、砂質部は一般に風化が進み粘質となっている。礫種は近在の基盤に由来するものが多く、クサレ礫を伴うことが多い。その層厚は最大100 m内外に達するものと推定できる。“高位段丘堆積物”とされたものは、これに相当する。

宮谷付近の台地では、この堆積物の上部が侵食され、中位段丘堆積物である砂層に被覆されているのがみられる。

2-2-2 固結堆積物及び火山性岩石

(f) 安山岩質岩石〔An₁〕

この岩石は、この地域の最下部にあたり竹田地区で浄法寺累層とよばれる地層の最上部を占める。図幅南部の竹田川峡谷沿いに分布がみられるが、竹田南部に

広く分布する。主として安山岩熔岩，石英安山岩熔岩および同質の凝灰角礫岩からなる。

(g) 安山岩質岩石〔Au₂〕

この岩石は，主として石英安山岩熔岩からなり，〔tf₁〕の火山礫凝灰岩にもなわれて産出する。後山，上清滝付近に小分布がみられる。

(h) 凝灰岩質岩石〔tf₁〕

この岩石は「足羽山層」とよばれた地層に相当し，石川県側の山中累層の延長とみなされる。劔ヶ岳から刈安山西方，北西方および竹田川中流の山竹田付近にかけて広く分布する。厚い，塊状を呈する火山礫凝灰岩ないしは凝灰角礫岩を特徴とし，一部に柱状節理のよく発達した石英安山岩熔岩を伴っている。いずれも石英安山岩質の火砕岩を主とする。櫛の粗粒凝灰岩の中から海棲貝化石が産出する。

(i) 凝灰岩質岩石〔tf₂〕

山中累層の上部に相当する地層で，流紋岩熔岩および軽石質凝灰岩を特徴とする。火燈山上部に広い分布がみとめられる。

(j) 凝灰質砂岩〔tfs〕

河南累層とよばれる地層に相当する。特に，下金屋付近から海生化石や植物化石を多産する。茶褐色または暗灰青色の凝灰質砂岩が特徴で，厚い塊状の浮石質凝灰岩の厚層があり，しばしば石材として採石された。下金屋付近から大型有孔化石の *Miogypsina*・*Operculina* を産出する。

(k) 流紋岩質岩石〔Rh〕

この岩石は，石英斑晶の良く目立つ流紋岩熔岩で，石川県側の別所流紋岩に対比される。流理構造の顕著な部分もある。畷市野々北方から県境にかけて小規模な分布がみられる。

(l) 泥岩〔md〕

細坪累層と呼ぶ地層に相当する。沢から北方樋山付近まで分布し，大部分均質な灰青色の塊状泥岩からなる貝化石，ウニ化石，魚鱗化石を多産する。

(m) 凝灰岩・凝灰質泥岩・砂岩〔tms〕

大聖寺累層とよぶ地層に相当する。北瀉湖よりの細呂木付近に分布する。下部

は灰白色の凝灰質泥岩，中部は凝灰質砂岩，また上部は暗褐色の安山岩質凝灰岩からなり，側方に分布が変化する。下部の凝灰質泥岩からはサメの歯化石や *Patinopecten kimurai* を産出し，中部の凝灰質砂岩からは保存のよい貝化石を多産する。

(n) 凝灰質泥岩〔tfm〕

石川県側の加佐の岬累層と呼ばれた地層に相当する。北潟湖東岸に沿い，吉崎付近まで，狭い分布を示す。下部は主に凝灰質泥岩からなり，上部は凝灰質砂岩及び凝灰角礫岩，火山角礫岩などからなる。貝化石，ウニ化石，魚鱗化石を多産し，腐植質を多く含む。

2-3 石材および鉱床

石材としては主に火山礫凝灰岩が採掘され，宮谷石，櫛石，権世石，能坂石などがあげられる。

この地域で，かつて稼行された鉱床としては，劔岳鉱山（閃亜鉛鉱，方鉛鉱），宇根鉱山（銀鉱）があげられる。

参 考 文 献

- 1) 吉田 森・吉川文次・宮越栄蔵（1936）：福井県の地形区，福井県郷土地理談話会報 I
- 2) 吉田 森・吉川文次・宮越栄蔵（1938）：加越台地研究地理教育 Vol.27 No.3
- 3) 三浦 静（1957）：加越台地の地質（第1報），特に新第三紀層の層序について，福井大学学芸学部紀要Ⅱ，17号，5集
- 4) 福井県（1963）：福井県水理（地下水）地質図，説明書
- 5) 福井県（1976）：福井県自然保全基礎調査報告書
- 6) 三国町（1964）：三国町史
- 7) 芦原町（1972）：芦原町史

Ⅲ 土 壤 図

1. 山地および丘陵地等の土壤（林地土壤）

(1) 概 説

当図幅内に出現する林地土壤は、主として更新世の砂、礫および新第三紀中新世の凝灰質砂岩、凝灰質泥岩、凝灰質岩石、流紋岩質岩石、安山岩質岩石、泥岩を母材としており、当図幅東部に位置する越前加賀西部山地には褐色森林土壤が広く分布し、尾根等の稜線部と斜面上部に乾性褐色森林土壤がみられる。また、当図幅西部に位置する越前丘陵地では赤褐色系の乾性褐色森林土壤が大部分を占めており、一部斜面下部から谷筋にかけて赤褐色の褐色森林土壤が出現している。さらに小面積ではあるが、北瀉湖畔沿に砂丘未熟土壤が分布する。

これらの土壤は、母材、土色、堆積様式、断面形態によって表1に示すように2土壤群、5土壤統群、18土壤統に区分された。

(2) 各 論

ア．砂丘未熟土壤

この土壤統群は、母材の堆積が比較的新しく層位の分化が不明瞭であり、土壤統は内灘統に区分した。

(ア) 内灘統

完新世の砂（新砂丘堆積物）を母材とする土壤で、表層が不安定でほとんどA₀層がなくA層、B層の層位分化がない。芦原町浜坂の北瀉湖畔沿に分布しており、クロマツ林となっている。

イ．乾性褐色森林土壤

この土壤統群は、尾根や山腹斜面上部の水分条件の悪い乾燥しやすい場所に分布しており、比較的酸性が強く養分に乏しい土壤である。A₀層は一般にF層とH層が発達して厚く、A層またはH-A層は黒色だが薄く、B層との境界は割合明瞭で、土壤構造はA層からB層にかけて粒状、時には一部堅果状構造が発達する。林野土壤分類のB_A、B_B型に相当する土壤で、本図幅内では主に母材の違いにより4統に区分された。

(ア) 竹田1統 (Tke-1)

この土壌統は、主として新生代新第三紀中新世の安山岩質岩石を母材としており、丸岡町山久保の北東に位置する山地に分布している。また、上清滝の東部にレンズ状に分布しているものは石英安山岩質岩石を母材としている。主な植生はアカマツあるいはコナラ、カエデ類を主とする広葉樹林となっているところが多い。

(イ) 刈安1統 (Kry-1)

新生代新第三紀中新世の火山礫凝灰岩および軽石質凝灰岩を母材としており、南北に走る北陸自動車道の東部に位置する越前加賀西部山地に広く分布する残積土である。植生は、コナラ、カエデ類を主とする、あるいはアカマツを含む落葉広葉樹林が多いが、スギの人工林もかなりみられる。また、風谷峠から南にのびる尾根沿にはクリミズナラ群落が存在する。

(ウ) 畝市野々1統 (Une-1)

新生代新第三紀中新世の凝灰質砂・泥岩および凝灰岩を母材としている土壌で、金津町畝市野々の北東部の山地に分布している。アカマツを含む混交林でヤブツバキ、ソヨゴ、ヒサカキなどが主な植生である。

(エ) 牛ノ谷1統 (Ush-1)

この土壌統は、新生代新第三紀中新世の流紋岩質岩石を母材としており、金津町の牛ノ谷峠から南東のごく一部の山地に分布する残積土で、酸度が強酸性の場合が多い。植生はコナラ群落となっており、コナラ、カエデ類が中心である。

ウ. 乾性褐色森林土壌 (赤褐系)

この土壌統群は一般に低海拔高の丘陵地に出現し、乾性褐色森林土壌に比較してA層は薄く淡色であり、B層およびC層の色調は赤味が強く、5~7.5 YRを示し、一般に強酸性で養分に乏しい。林野土壌分類のrB_B型に相当する土壌で、本図幅内では主に母材の違いにより5統に区分された。

(ク) 芦原1統 (Awa-1)

新生代第四紀更新世の中位段丘堆積物(砂層)を母材とする埴質壤土で、B層以下は母材の影響で砂質となっていることが多い。金津町の橋屋、細呂木、駅前付近に分布し、植生は、アカマツを含むコナラ、ヒサカキ、ソヨゴ等の混交林にな

っている。

(イ) 指中1統 (Yub-1)

この土壌統は、新生代第四紀更新世の高位段丘堆積物(泥・砂礫)を母材としており、金津町の指中、畝市野々、鎌谷付近に分布している。コナラ、ヒサカキ等の広葉樹を含むアカマツ群落となっている。

(ウ) 権世1統 (Gon-1)

この土壌統は、新生代新第三紀中新世の火山礫凝灰岩、軽石質凝灰岩、石英安山岩および安山岩質凝灰岩を母材としており、金津町の権世、笹岡、矢地、前谷、瓜生付近の緩斜地に分布している。植生はほとんどがアカマツを主とした雑木林になっている。

(エ) 滝1統 (Tak-1)

金津町の滝、沢付近の緩斜地に分布する土壌で、新生代新第三紀中新世の凝灰質砂・泥岩、凝灰岩、凝灰質岩石および泥岩を母材としており、B層以下は砂質となっていることが多い。植生はアカマツ、ソヨゴ、ヤマウルシ等の混交林となっている。

(オ) 後山統 (Uya)

新生代新第三紀中新世の石英安山岩質岩石を母材としており、金津町の後山、上清滝のごく限られた範囲に分布している。土性は埴土となっているところが多いので理化学的性質はよくない。植生はアカマツを主とする雑木林となっている。

エ. 褐色森林土壌

この土壌統群は、山腹斜面中腹から下部にかけて分布しており、水分条件が比較的良好であるため、落葉落枝などの有機物の分解が速く、従ってA₀層はとくに発達しないが多少F層、H層を伴う場合もある。A層は黒褐色を呈して割合厚くB層に漸変している。A層上部には団粒状構造あるいは団粒状構造に粒状構造を混えた土壌構造が発達し、A層下部にはしばしば塊状構造あるいは堅果状構造がみられる。土壌構造上著しい乾燥や過湿の影響がみられず、種々の条件に恵まれ生産力は高い。林野土壌分類のB₀、B₀(d)型に相当する土壌であり、本図幅内では主に母材の違いにより4統に区分された。

(ア) 竹田 2 統 (Tke-2)

母材は竹田 1 統と同じであり、それらの分布地域に出現する匍行および崩積土である。土性は埴質壤土のところが多く、スギの人工林が主な植生となっている。

(イ) 刈安 2 統 (Kry-2)

この土壌統は土性が埴土のところが多く、土粒が小さいため、理化学的性質はよくないが、生産力はそれほど低くはない。母材は、刈安 1 統と同一であり、それらの分布地域に出現する匍行および崩積土である。植生は、スギの人工林が多く、その他は、アカマツあるいはコナラを主とする雑木林である。

(ウ) 畝市野々 2 統 (Une-2)

母材は畝市野々 1 統と同じであり、それらの分布地域に出現する匍行および崩積土である。植生は、アカマツとコナラ、ヤマウルシ等の混交林になっている。

(エ) 牛ノ谷 2 統 (Ush-2)

母材は牛ノ谷 1 統と同一であり、それらの分布地域に出現する匍行および崩積土である。牛ノ谷 1 統に比べ酸度はそれほど強酸性ではない。植生はコナラ、カエデ類等の広葉樹木となっている。

オ. 褐色森林土壌 (赤褐色)

この土壌統群は、褐色森林土壌のうち B 層および C 層の色調が標準的なものに比べて赤味が強く 5 ~ 7.5 YR を示し、A 層は薄く一般に淡色である。一般に低海拔地域に分布しており、酸性が強く養分に乏しいが、比較的水分条件は良いので有機物の分解が割合速く生産力はそれほど低くはない。林野土壌分類の rBo, rBo(d)型に相当する土壌であり、本図幅内では主に母材の違いにより 4 統に区別された。

(ア) 芦原 2 統 (Awa-2)

母材は芦原 1 統と同じであり、それらの分布地域に出現する匍行および崩積土である。水分条件の良い場所に限られているため分布面積は少ない。植生はほとんどアカマツを主とする混交林あるいはコナラ類の広葉樹林となっている。

(イ) 指中 2 統 (Yub-2)

母材は指中 1 統と同一であり、それらの分布地域に出現する匍行および崩積土である。芦原 2 統と同様に分布する場所が限られているため面積は少ない。植生

は一部スギの人工林もみられるが、ほとんどアカマツ群落となっている。

(ウ) 権世2統 (Gon-2)

母材は権世1統と同じであり、それらの分布地域に出現する匍行および崩積土である。谷筋の水分の供給が割合良い場所に分布している。植生としては、スギの人工林が目立つが、その他はアカマツと落葉広葉樹の混交林になっている。

(エ) 滝2統 (Tak-2)

母材は滝1統と同じであり、それらの分布地域に出現する匍行および崩積土である。権世2統と同様な場所に存在しており、植生は、ほとんどがアカマツを主とする落葉広葉樹との混交林となっている。また、ごく一部分ではあるが、金津町指中付近にはヤブコウジースダジイ群落もみられる。

表1 山地および丘陵地の土壌

土 壌 群	土 壌 統 群	土 壌 統
未 熟 土	砂丘未熟土壌 Sand dune regosols	内 灘 統
褐 色 森 林 土	乾性褐色森林土壌 Dry brown forest soils	竹 田 1 統 刈 安 1 統 畝市野々 1 統 牛ノ谷 1 統
	乾性褐色森林土壌 (赤褐系) Dry brown forest soils (reddish brown)	芦 原 1 統 指 中 1 統 権 世 1 統 滝 1 統 後 山 統
	褐色森林土壌 Brown forest soils	竹 田 2 統 刈 安 2 統 畝市野々 2 統 牛ノ谷 2 統
	褐色森林土壌 (赤褐系) Brown forest soils (reddish brown)	芦 原 2 統 指 中 2 統 権 世 2 統 滝 2 統

参 考 文 献

- 1) 林野弘済会(1982): 森林土壌の調べ方とその性質(農林水産省林業試験場
土壌部監修・森林土壌研究会編)
- 2) 農林省林業試験場(1975): 林業試験場研究報告第280号(林野土壌の分類)
- 3) 福井県(1969): 15万分の1福井県地質図, 同図幅説明書
- 4) 福井県(1977): 福井県民有林適地適木調査説明書(福井・坂井地区), 付
5万分の1土壌図
- 5) 福井県(1981): 土地分類基本調査(三国), 付5万分の1土壌図
(福井県総合グリーンセンター 川端秀治)

2. 台地および低地の土壌(農地土壌)

(1) 概 説

当図幅内の農地は、加越台地の平坦面に普通畑、樹園地が分布し、土壌は主として洪積世堆積物を母材として生成された褐色森林土から成っている。観音川、竹田川、熊坂川、権世川、清滝川、田島川各流域の山麓緩斜面および低地(谷底平野、扇状地、汜らん原、自然堤防など)には水田および普通畑が分布している。低位段丘面の土壌は、崩積堆積物を母材として生成された灰色台地土壌(乾田)、グライ台地土壌(湿田、半湿田)から成っており、低地面の土壌は、沖積世堆積物を母材として生成された褐色低地土壌(畑、乾田)、灰色低地土壌(乾田)、グライ土壌(湿田、半湿田)から成っている。

これらの農地土壌は、土色、土性断面形態、母材、堆積様式の差違によって表2に示すとおり7土壌群、15土壌統群、26土壌統に区分された。

(2) 各 論

ア. 表層腐植質多湿ボク土壌(水田)

(ア) 上尾統(0428・Ageo)

この土壌は、沖積世堆積物がやや不良な排水条件下で生成され、表層は腐植に富む黒褐色である。下層は黄ないし黄褐色で地下水または灌漑水の影響による斑紋が見られる。土性は壤質である。本図幅内では金津町笹岡、柵に分布している。

イ．細粒褐色森林土壌（畑）

（ア）笠山統（0608・Kasayama）

この土壌は、洪積世堆積物から成り、全層黄褐色を呈し、土性は粘質で主に普通畑、樹園地として利用されている。本図幅内では金津町細呂木、指、大滝、宮谷の丘陵地に分布している。

ウ．礫質灰色台地土壌（水田）

（ア）長田統（0711・Nagata）

この土壌は、主として台地（段丘）平坦面ないし緩斜面に分布し、ほぼ全層が灰色または灰褐色の土層から成り、土層中に斑紋が見られる。母材は沖積世の崩積堆積物で30～60 cm以下礫層を有する。本図幅内では金津町権世、鎌谷、清滝に分布している。

（イ）関口統（0711・Sekiguchi）

この土壌は、土色、母材、堆積様式などは（ア）の長田統と同じであるが、0～30 cm以下礫層から成っている。本図幅内では、丸岡町川上、山竹田に分布している。

エ．細粒グライ台地土壌（水田）

（ア）歌代統（0802・Utashiro）

この土壌は、台地あるいは一部の山地や丘陵地に分布し、全層もしくは作土を除くほぼ全層がグライ層が成り青灰色を呈し、土性は粘質である。堆積様式は、崩積である。本図幅内では、金津町東山に分布している。

（イ）滝川統（0803・Takikawa）

この土壌は、台地あるいは一部の山地や丘陵地に分布している。表層は灰色ないし灰褐色の土層から成り、下層がグライ層で土性は強粘質である。母材、堆積様式は（ア）の歌代統と同じで、本図幅内では金津町畝市野々に分布している。

（ウ）橋本統（0804・Hashimoto）

この土壌は、土色、母材、堆積様式などは（イ）の滝川統と同じであるが、土性は粘質である。本図幅内では金津町上清滝に分布している。

オ．中粗粒褐色低地土壌・斑紋あり（水田・畑）

（ア）荻野統（1212・Ogino）

この土壌は、沖積低地に分布し、ほぼ全層が黄褐色を呈し、母材は沖積世堆積

物からなる。灰色低地土やグライ土にくらべやや高い地形面に分布し、地下水位は低い。土性は壤質である。本図幅内では金津町熊坂に分布している。

カ．細粒灰色低地土壌・灰色系（水田）

(ア) 鴨島統（1305・Kamojima）

この土壌は、沖積低地に分布し、ほぼ全層が灰色を呈し、母材は沖積世堆積物からなる。グライ土にくらべ地下水位は低く、排水は中庸ないしやや不良である。土性は粘質である。本図幅内では金津町北野、東山に分布している。

キ．中粗粒灰色低地土・灰色系（水田）

(ア) 加茂統（1307・Kamo）

この土壌は、土色、断面形態、母材、堆積様式など鴨島統と同じであるが、土性が壤質であるので区別される。排水は中庸である。本図幅内では金津町沢、矢地、柵に分布している。

ク．細粒灰色低地土壌・灰褐色系（水田）

(ア) 金田統（1315・Kaneda）

この土壌は、沖積低地に分布し、ほぼ全層が灰褐色を呈し、土性は粘質である。沖積世堆積物を母材とし、この土層は灰色系のものより多少酸化の程度が進んでいる。本図幅内では金津町御簾ノ尾に分布している。

(イ) 多多良統（1316・Tatara）

この土壌は、(ア)の金田統と同じであるが、作土直下からマンガン斑や結核が見られる。本図幅内では金津町清間に分布している。

ケ．中粗粒灰色低地土壌・灰褐色系（水田）

(ア) 安来統（1317・Yasuki）

この土壌は、自然堤防、扇状地などに広く分布し、ほぼ全層が灰褐色からなり、土性は壤質である。マンガン斑や結核は認められない。本図幅内では竹田川沿いに広く分布している。

コ．礫質灰色低地土壌・灰褐色系（水田）

(ア) 松本統（1321・Matsumoto）

この土壌は、扇状地などに分布し、ほぼ全層が灰褐色を呈し、30～60cm以下は砂礫層からなり、土性は壤質ないし砂質である。本図幅内では金津町権世、権世

市野々、丸岡町山久保、川上に分布している。

サ. 細粒強グライ土壌(水田)

(ア) 富曾亀統(1401・Fusoki)

この土壌は、全層もしくは作土を除くほぼ全層がグライ層からなり青灰色を呈している。地下水位が高く土壌の還元性強く、30cm以下には斑紋がみられない。土性は強粘質である。沖積平野、谷底低地など平坦な地形に分布し、本図幅内では、坂井町御油田、丸岡町玄女に分布している。

(イ) 西山統(1403・Nishiyama)

この土壌は、土色、母材、堆積様式、断面形態などは、富曾亀統と類似しており土性は粘質である。本図幅内では、金津町指中、清間、桑原、坂井町長尾に分布している。

(ウ) 東浦統(1404・Higashiura)

この土壌は、富曾亀統、西山統と類似しているが、非灌漑期には地下水位が低下し、30cm以下に斑紋がみられる。土性は粘質である。本図幅内では、金津町橋尾、樋山、東山に分布している。

シ. 中粗粒強グライ土壌(水田)

(ア) 芝井統(1405・Shibai)

この土壌は、全層もしくは作土を除くほぼ全層がグライ層からなり、土色は青灰色を呈した強還元性土壌である。年間の大部分の期間地下水位が高く、一般に排水不良である。30cm以下には斑紋が見られない。土性は壤質である。本図幅内では、金津町矢地、北疋田、南疋田、堀水に分布している。

(イ) 滝尾統(1406・Takio)

この土壌は、(ア)の芝井統と類似している。非灌漑期には地下水位が低下し、下層まで斑紋の生成が見られる。土性は壤質である。本図幅内では金津町宮谷に分布している。

(ウ) 琴浜統(1407・Kotohama)

この土壌は、全層もしくは作土を除くほぼ全層がグライ層からなり青灰色を呈した強還元性土壌である。地下水位が高く30cm以下には斑紋が見られない。土質は砂質である。本図幅内では北潟湖周辺に分布している。

ス. 細粒グライ土

(ア) 千年統 (1418 ・ Chitose)

この土壤は、30～80cm以内からグライ層を有するが、地下水位は強グライ土にくらべてやや低く下層まで斑紋の生成が見られる。土性は粘質である。本図幅内では、金津町橋屋、上清滝に分布している。

セ. 中粗粒グライ土

(ア) 新山統 (1421 ・ Niiyama)

この土壤は、千年統に類似している。土性は壤質である。本図幅内では金津町水滝、熊坂、御簾ノ尾、清間に分布している。

ソ. グライ土壌・下層有機質

(ア) 檐山統 (1429 ・ Narayama)

この土壤は、主として後背湿地、谷底低地に分布し、表層は青灰色を呈し30～80cm以内に泥炭層が出現する。一般に地耐力の弱い土壤である。土質は粘質である。本図幅内では金津町指、滝、水滝に分布している。本図幅内で加越台地の谷底低地に分布している。

(イ) 幌内統 (1431 ・ Horonai)

この土壤は(ア)の檐山統と類似しており、30～80cm以内に泥炭層を有する。土性は砂質である。

(ウ) 上地統 (1434 ・ Ueji)

この土壤は、主として谷底低地に分布し、表層は青灰色を呈したグライ層である。30～80cm以内に黒泥層が出現する。本図幅内では加越台地の谷底低地に分布している。

参 考 文 献

- 1) 農林省農業技術研究所化学部土壤第3科(1983):土壤統の設定基準および
土壤統一覧第2次改訂版
- 2) 農林水産省農林事務次官依命通達(1985):土壤環境対策事業実施要領
- 3) 農林水産省農産園芸局長通達(1985):土壤環境対策事業の実施について
- 4) 福井県(1978):地力保全基本調査総合成績書および15万分の1福井県耕地
土壤図
- 5) 福井県農業試験場(1974):5万分の1水田土壤生産性分級図(坂井地域)
- 6) 博友社(1984):土壤調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編)
- 7) 福井県(1979):福井県地質図幅説明書および15万分の1福井県地質図
- 8) 福井県(1977):土地分類基本調査(三国)・付5万分の1土壤図
- 9) 博友社(1978):野外研究と土壤図作成のための土壤調査法(土壤調査法編
集委員会編)

(福井県農業試験場 野村豪一)

Ⅳ 土地利用現況図

1. 概説

本地域は、低地が38.9%を占め、山地33.8%、丘陵・台地27.3%の構成となっている。低地は、主に水田、住居に利用され、山地は森林、丘陵・台地は畑・果樹園、レクリエーション施設等に利用されている。

2. 各論

(1) 農地

農地は、低地部の水田と丘陵・台地部の畑・果樹園とに大別できる。

本地域南西部に広がる坂井平野では、古くから本県の早場米地帯として稲作中心の農業が行われており、昭和40年代後半から行われた圃場整備事業も完了し、生産性の高い水稲単作地帯となっている。そのほか、観音川、宮谷川、熊坂川、清滝川の侵食谷及び後山の谷底地部に水田が分布している。特に後山では、水田の周辺部に溜池がよく発達している。

畑地は、地域西部の加越台地上に分布している。ここでは、砂質の土壤を利用して、スイカ、メロン、大根、白菜などが栽培されている。果樹園は、宮谷南部の台地上に見られ、主にカキが栽培されている。この台地上の農地は、昭和46年度から始まった国営総合農地開発事業（坂井北部）により整備されている。

(2) 林地

本地域は、山地部にスギを中心とした人工針葉樹林とコナラ群落が分布しており、丘陵・台地部にはアカマツの群落が分布している。

スギの造林は、金津町権世市野々から刈安山に通じる林道、丸岡町川上から竹田に通じる県道の周辺によく発達している。刈安山の山頂付近では、金津町が森林自然公園を整備中である。

丘陵・台地部では、砂質の土壤のためアカマツが広く分布している。金津町指中、沢附近、宮谷南部に見られる人工針葉樹林も、アカマツが中心となっている。

(3) 都市・村落

本地域には、市街地は見られない。平野部の集落は、竹田川沿いの自然堤防上

に多く見られる。山間部には、河川の侵食谷の谷底低地に集落が発達している。これらは、いずれも農村集落であるが、地域北端の吉崎には門前町が形成されている。吉崎は中世、蓮如によって開かれた寺内町で、その跡に建立された東・西本願寺への厚い信仰から門前町としてのにぎわいを続けている。

工場は、北陸本線細呂木駅周辺と国道8号沿いに一部見られる。また、金津町の矢地集落西側では、金津町工業団地が造成中である。同町下金屋の造成地は、宅地開発のものであるが、工事は中止され現在は空閑地となっている。

主な公共施設は、金津町笹岡にごみ処理施設、同町権世に産業廃棄物処理施設がある。緑地は、金津町細呂木に民間のキャンプスポーツ場がある。

(4) その他

本地域には、砂質のゆるやかな丘陵とアカマツ林を利用して、ゴルフ場が多く見受けられる。地域北端の吉崎御坊は、北瀉湖・越前加賀海岸国定公園などとともに、観光ルートに組み込まれている。

また、昭和60年1月に駅・ルートの公表が行われた北陸新幹線は、地域北部を通過することになっている。

参 考 文 献

- 1) 福井県(1976): 福井県自然環境保全調査報告書
- 2) 日本地誌研究所(1970): 日本地誌, 第10巻 富山県・石川県・福井県
- 3) 北陸農政局福井統計情報事務所(1984): 福井農林水産統計年報
- 4) 環境庁(1982): 福井県現存植生図

(福井県地域振興課)

表2 台地および低地の土壌の分類基準と土壌統

土壌群	土壌統群	土壌統番	土壌統号	土壌統の内容	母材	堆積様式	主な土地利用
多湿黒ボク土	表層腐植質多湿黒ボク土	上尾統	0428	表層黒ボク土, 壤~砂質 斑紋・グライ層なし	非固結堆積岩	水積	水田
	褐色粗森林土	笠山統	0608	全層黄褐色土, 強粘質 斑紋・グライ層なし	非固結堆積岩	洪積	畑
灰色台地土	質灰色礫台	長田統	0711	全層灰~灰褐色土, 強粘~粘質 30~60cm以下礫層, 斑紋あり	非固結堆積岩	崩積	水田
		関口統	0713	全層灰~灰褐色土, 壤~砂質 0~30cm以下礫層, 斑紋あり	非固結堆積岩	崩積	水田
グライ台地土		歌代統	0802	全層もしくは作土を除く全層グライ層 強粘質	非固結堆積岩	崩積	水田
		滝川統	0803	全層もしくは作土を除く全層グライ層 粘質	非固結堆積岩	崩積	水田
褐色低地土	粗粒褐色地	橋本統	0804	表層灰~灰褐色, 下層グライ層 粘質	非固結堆積岩	崩積	水田
	細粒褐色地	荻野統	1212	全層黄褐色土, 斑紋あり Mn結核なし, 壤質	非固結堆積岩	水積	水田(畑)
灰色低地土	細粒灰色低地土	鴨島統	1305	全層灰色土, 斑紋あり Mn結核なし, 粘質	非固結堆積岩	水積	水田
	細粒灰色低地土	加茂統	1307	全層灰色土, 斑紋あり Mn結核なし, 壤質	非固結堆積岩	水積	水田
灰色低地土	細粒灰色低地土	金田統	1315	全層灰褐色土, 斑紋あり Mn結核なし, 粘質	非固結堆積岩	水積	水田
	細粒灰色低地土	多々良統	1316	全層灰褐色土, 斑紋あり Mn結核あり, 粘質	非固結堆積岩	水積	水田
灰色低地土	中粗粒灰色低地土	安来統	1317	全層灰褐色土, 斑紋あり Mn結核なし, 壤質	非固結堆積岩	水積	水田
	礫質灰色低地土	松本統	1321	全層灰褐色土, 30~60cm以下礫層 斑紋あり, 壤~砂質	非固結堆積岩	水積	水田
灰色低地土	細粒強グライ土	富貴亀統	1401	全層もしくは作土を除く全層グライ層 30cm以下斑紋なし, 強粘質	非固結堆積岩	水積	水田
		西山統	1403	全層もしくは作土を除く全層グライ層 30cm以下斑紋なし, 粘質	非固結堆積岩	水積	水田
灰色低地土		東浦統	1404	全層もしくは作土を除く全層グライ層 30cm以下斑紋あり, 粘質	非固結堆積岩	水積	水田
		芝井統	1405	全層もしくは作土を除く全層グライ層 30cm以下斑紋なし, 壤質	非固結堆積岩	水積	水田
灰色低地土	中粗粒強グライ土	滝尾統	1406	全層もしくは作土を除く全層グライ層 30cm以下斑紋あり, 壤質	非固結堆積岩	水積	水田
		琴浜統	1407	全層もしくは作土を除く全層グライ層 30cm以下斑紋なし, 砂質	非固結堆積岩	水積	水田
灰色低地土	細粒グライ土	千年統	1418	表層灰色土, 30cm以下グライ層 斑紋あり, Mn結核なし, 粘質	非固結堆積岩	水積	水田
	中粗粒グライ土	新山統	1421	表層灰色土, 30cm以下グライ層 斑紋あり, Mn結核なし, 壤質	非固結堆積岩	水積	水田
灰色低地土		橋山統	1429	表層青灰色土, 30cm以下泥炭層 粘質	非固結堆積岩 植物遺体	水積 集積	水田
	グライ土	幌内統	1431	表層青灰色土 30cm以下泥炭層 砂質	非固結堆積岩 植物遺体	水積 集積	水田
		上地統	1434	表層青灰色土 30cm以下黒泥層 壤質	非固結堆積岩 植物遺体	水積 集積	水田